

ナバリスト 23

中川 久美子 さん

名張市社会福祉協議会
なばり暮らしあんしんセンター

なかがわ くみこ ● 大阪出身で、結婚を機に名張へ移住。大学卒業後は営業職で数字に追われる毎日だったが、もっと人の幸せを求められる仕事がしたいと社会福祉協議会へ転職し、社会福祉士の資格を取得。とことん相談者に寄り添える相談支援業務に天職を見出す。現在は主任相談支援員として、生活に困難を抱える一人ひとりに寄り添い、その人らしい自立した生活に向けた支援に日々尽力している。



あなたの不安に
寄り添います



面談や雑談の中から、悩みの原因やその人の得意なことを見つけ出す



関係機関との連携は不可欠。市役所には頻りに訪れ、担当者と情報交換をする



20代の頃はバックパッカーで世界を旅して、現地の人とのふれあいを楽しんでいた

あなたらしい人生に伴走したい

私たちの仕事は、困りごとを「解決してあげる」ことではありません。相談者の抱える課題や背景を整理して、解決方法を「一緒に考える」。その人らしい生活に向けてサポートするのが、私たちの役目です。その人にあった支援が必要なので、マニュアルがないことは、やりがいであり難しさでもあります。行き詰まった状況をどう解決するか、本人と一緒に必死に考え、その過程に寄り添う。本人が自分の人生に向き合い、一歩踏み出せるのが喜びです。とはいえ、一人でやれることは限られているので、職場のチーム力や関係機関と密に連携し合える体制があつてこそ、良い支援ができるのだと思っています。

私のモットーは、『心は熱く、頭は冷静に』。その人と思うあまり、「こうした方がいいの」と無意識に自分の価値観を押し付けられないように心がけています。「どんな人生を歩みたいのか」を冷静に聴き取り、周囲の環境なども考慮しながら、熱意を持ってサポートできるように支援員を目指しています。特に、就労支援で見逃さないようにしているのは、面談などで話をしている時に、表情が変わる瞬間。本人も気づいていない強みを見つけた時、とてもやりがいを感じます。

生活困窮は決して他人事ではありません。私自身も、就職氷河期や家族の病気で働き方が揺らぎかけた経験があります。今は偶然働けているだけで、今後は分からない。だから、現在働いていない人を「根性がない」と排除しない社会にしていきたいんです。歳を重ねても、ひきこもり状態にある人も、障害がある人も、誰もがその人らしく暮らせる、あつたかい名張であってほしいですね。

編集後記



名張のひと・活動

「こんなに深く考えてくれていたなんて」。梅澤さんの言葉に涙ぐむ中川さん。どんな理想も仲間がいないと広がりません。情熱を受け取った人が、さらに誰かに渡す循環が生まれるといいですね(たか)

二十歳のついででは、迷うことなくすらすらと自分の夢を書いてくれる人も。皆さんのあふれる思いが、自分も初心に戻り、新たな気持ちで今年も頑張ろうと感じさせてくれました(くま)

「誰でも歯車がずれたら生活が回らなくなる」と聞き、ドキッとしてしまった。今は偶然生活できているだけで、明日は我が身かも……。でも、そんな時に隣で支えてくれる人がいるのは安心ですね(はる)

ガイドの得意なことを重ね合わせて企画したというエコツアー。春の陽気をいっぱいに浴びる予定を入れれば、きっと寒い冬もワクワクしながら越せるはず。ぜひご参加を(はな)

